

# 国際シンポジウム

## ESD と 「場の教育」

専門家、学生、市民が語り合う

参加無料

2015年1月11日(日)、12日(祝)

国立オリンピック記念青少年総合センター  
国際交流棟、センター棟 (分科会)

「国連の持続可能な開発のための教育の10年 (DESD)」を受け、近年注目されてきた地域や場とのつながりを重視する学び (Place-Based Education) と ESD について議論をします。

マオリ族の野外活動家、タイの若手放送人、スコットランドのベテラン研究者、岩手県で過疎に取り組む町長など、多彩な人々が集まって、持続可能な社会づくりを、教育と地域の視点から考えます。分科会での積極的な情報交換にもご参加下さい。

対象：学校教育や生涯教育、地域づくりや農山村交流、持続可能な社会づくりなどに関心を持つ学生、市民、実践者、研究者

助成：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金

企画委員：

阿部治・立教大学教授 安藤聡彦・埼玉大学教授 木俣美樹男・東京学芸大学名誉教授  
佐々木豊志・くりこま高原自然学校代表 佐久間憲生・出羽三山の自然を守る会理事長  
高野孝子・エコプラス代表理事 横山隆一・日本自然保護協会参事

後援：日本環境教育学会、日本野外教育学会、日本環境教育フォーラム (JEEF)

「持続可能な開発のための教育の10年推進会議」(ESD-J)

ECO  PLUS

## 日程・分科会

- 11 日午後 海外ゲストの基調講演、全体討論、レセプション（一般 3,500 円、学生 2,500 円）  
12 日午前 葛巻町の鈴木さんの話題提供の後、分科会。  
①暮らしと学び・・トランジションタウンの試みなどから  
②野外教育・自然体験と地域・・自然体験に社会の視点を  
③公教育と地域・・新潟県立長岡中学校などを事例に  
12 日午後 とりまとめ会議

持続可能な（Sustainable）な社会をどう作っていくか。それぞれの場、地域が持つ学びの意義と価値は何か。学生から企業人まで幅広いみなさんの参加をお待ちしています。

## 特別ゲスト



### ピート・ヒギンズさん Prof. Peter HIGGINS エジンバラ大学教授

エジンバラ大学で野外・環境教育部門長。スコットランド自治政府は教育から保健、農水産業、エネルギーなど、あらゆる社会活動で持続可能性を軸にした政策を展開中。この中で、幼稚園から大学までのすべての学校を対象に推し進めようとする持続可能性教育（Education for Sustainability, EfS）で、ヒギンズ教授が中心的役割を担っている。



### イヒ・ヘケさん Dr. Ihi HEKE 健康・教育アドバイザー

ニュージーランドの先住民族であるマオリ族の出身。マオリ族のための健康体育指導活動を展開している。オタゴ大学心理学博士。オタゴ大学のほか、ハワイ、中東などで教鞭を取る。少数民族の健康問題への取り組みの必要性を訴え、その地域の、環境に根ざした知恵や伝統的な人々の役割に配慮した学びが必要だと訴えている。



### ジェサダ・サラトーンさん Dr. Jessada Salathong チュラロンコン大学講師

大学でコミュニケーションを教えると同時に、テレビやラジオのホストを務める。持続可能な開発のための教育（ESD）に深く関わり、タイの新聞における ESD 研究で、早稲田大学アジア太平洋研究科で博士号取得。若者を巻き込んだ ESD イベントにも関わる。



### 鈴木重男さん Mr. SUZUKI Shigeo 岩手県葛巻町長

過疎地の葛巻町で、風力や太陽光、バイオエネルギーなどを使った新エネルギー開発と、都会の人を受け入れる U・I ターン活動を推進。来年度からは地元の葛巻高校を舞台にした、全国でも珍しい高校生の山村留学を始める。人口 7,000 人の酪農の町からの情報発信に力を入れる。

## 参加申込

氏名、所属、連絡先（郵便番号、住所、電話、メールアドレス）、レセプション参加の有無、参加希望分科会名を、エコプラス事務局（info@ecoplus.jp FAX:03-5294-1442）までお知らせください。当日参加も可能ですが、できるだけ事前お申し込みをお願いします。お申し込みをいただいた方には資料を用意し、後日報告書をお送りします。



特定非営利活動法人 ECOPLUS

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-5-16-4F

TEL:03-5294-1441 FAX:03-5294-1442 info@ecoplus.jp

<http://www.ecoplus.jp/>